

定理 10.1 V を \mathbf{R} 上のベクトル空間とする. V のベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ が生成する部分空間 $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ は

$$\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle = \{ t_1 \mathbf{a}_1 + t_2 \mathbf{a}_2 + \dots + t_n \mathbf{a}_n \mid t_1, t_2, \dots, t_n \in \mathbf{R} \}$$

により定義されるが, これについて, 以下が成り立つ:

(1) $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ は $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ を含む最小の部分空間である. すなわち, W が V の部分空間であって $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \in W$ ならば $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle \subset W$ が成り立つ.

(2) (i) $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ は $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ のうちのあるベクトルを他のベクトルに加えても不変である. 例えば, \mathbf{a}_j を \mathbf{a}_i に加えて得られる部分空間

$$\langle \mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_i + \mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$$

は元の $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ と等しい.

(ii) $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ は $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ のうちのあるベクトルを 0 でないスカラー倍しても不変である. 例えば, \mathbf{a}_i を $k (\neq 0)$ 倍して得られる部分空間

$$\langle \mathbf{a}_1, \dots, k\mathbf{a}_i, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$$

は元の $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ と等しい (注 1).

(証明)

(1) まず, $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ が V の部分空間であることは定義から容易にわかる. 実際, $\mathbf{v}, \mathbf{w} \in \langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ ならば, ある $s_1, s_2, \dots, s_n, t_1, t_2, \dots, t_n \in \mathbf{R}$ により

$$\mathbf{v} = s_1 \mathbf{a}_1 + s_2 \mathbf{a}_2 + \dots + s_n \mathbf{a}_n$$

$$\mathbf{w} = t_1 \mathbf{a}_1 + t_2 \mathbf{a}_2 + \dots + t_n \mathbf{a}_n$$

と表されるから, このとき任意の $k, l \in \mathbf{R}$ に対して

$$k\mathbf{v} + l\mathbf{w} = (ks_1 + lt_1)\mathbf{a}_1 + (ks_2 + lt_2)\mathbf{a}_2 + \dots + (ks_n + lt_n)\mathbf{a}_n \in \langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$$

となる.

また, W が V の部分空間であって $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \in W$ であるとする. 部分空間の定義により, 任意の $t_1, t_2, \dots, t_n \in \mathbf{R}$ に対して $t_1 \mathbf{a}_1 + t_2 \mathbf{a}_2 + \dots + t_n \mathbf{a}_n \in W$ となる. これは $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle \subset W$ であることを意味する.

(2) それぞれ, 次のことの注意すると明らかであろう:

$$\begin{aligned} \text{(i)} \quad t_1 \mathbf{a}_1 + \dots + t_i (\mathbf{a}_i + \mathbf{a}_j) + \dots + t_j \mathbf{a}_j + \dots + t_n \mathbf{a}_n \\ = t_1 \mathbf{a}_1 + \dots + t_i \mathbf{a}_i + \dots + (t_i + t_j) \mathbf{a}_j + \dots + t_n \mathbf{a}_n \end{aligned}$$

$$\text{(ii)} \quad t_1 \mathbf{a}_1 + \dots + t_i (k\mathbf{a}_i) + \dots + t_n \mathbf{a}_n = t_1 \mathbf{a}_1 + \dots + (t_i k) \mathbf{a}_i + \dots + t_n \mathbf{a}_n$$

.....

(注 1) これらのことから, あるベクトルのスカラー倍を他のベクトル加えても不変であることがわかる. すなわち, 例えば \mathbf{a}_j の k 倍を \mathbf{a}_i に加えて得られる部分空間 $\langle \mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_i + k\mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_j, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ は元の $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ と等しい. $\langle \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n \rangle$ の基底を求めるには, この性質を利用するとよい.